

# 審判講習会 参加報告書

平成27年 9月 15日

報告者 二宮 誠

<b>講習会名 (大会名)</b>	第56回全国高等学校体育連盟バスケットボール専門部審判研修会
<b>参加者 (報告者)</b>	二宮 誠 (所属カテゴリー) 高体連
<b>期 日</b>	平成27年 7月25日(土) から 平成27年 7月29日(水)
<b>会 場</b>	ハンナリーズアリーナ・島津アリーナ京都・京都府山城運動公園体育館
<b>講 師</b>	相原伸康・平原勇次・吉橋雅一・渡部整・清水幹治・宇治原尚彦・安西郷史・片寄達
<b>参加者</b>	各都道府県より58名
<b>報告① □ 講義</b>	<p>□講 義 講師 渡部 整 氏          テーマ 『信頼される判定をするために ～ルール・マニュアルの正しい理解と適応～』</p> <p>■講習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感謝の気持ちを持ってコートに立つ</li> <li>・選手・コーチの情熱、保護者の期待に応える。</li> <li>・態度、言動（常に見られている。関係者との接触等。コート外でも）</li> <li>・信頼される判定           <ul style="list-style-type: none"> <li>①正しい判定を積み重ねる               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールがあって技術がある。正しいルールの理解・技術の理解。</li> <li>・正しいマニュアルの実践。二人の協力。</li> </ul> </li> <li>②公正・公平な判定               <ul style="list-style-type: none"> <li>・片方のチームに偏らない。</li> </ul> </li> <li>③感情的な判定をしない。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しいものは正しい。悪いものは悪い。沈着・冷静な判定・態度でゲームを正しい方向へ導いていく。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
<b>報告② □ 実技講習</b>	<p>□実技講習 講師 清水幹治氏 宇治原尚彦氏</p> <p>■講習内容 及び ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ニュートレイル→エンドスローイン→右へのボールキャリアー→左へスキップパス</li> <li>○1番からの1on1、3番からの1on1。</li> <li>○3対3。UCLAカット→ピック。</li> </ul> <p>トレイルとリードのそれぞれの役割、位置取り、目の当て方など</p>

<p><b>報告③</b> □ 講義</p>	<p>□講 義 講師 片寄 達 氏 テーマ『 who wants to be a good referee? 』  <b>■講習内容 及び ミーティング内容</b>  ・レフリーはゲームを管理するが、寡黙で目立たない存在である。  ・レフリーは公正・勤勉で・嘘をつかず・頼られる存在である。  ・そのために良い場所・良いタイミングで判定することが大切だ。  英語の先生らしく英語で書かれたプレゼンでの講義であった。  NBLのVTRから、その現象や判定に至るまでの、選手やコーチとのやりとりや、審判がその時感じていたことを聞き、ゲーム中のアピールはもちろん、選手やコーチの言動・表情・しぐさ、相手審判の反応など、たくさんのことにアンテナを張って、ゲームを感じようとしていることがよく分かった。</p>
<p><b>報告④</b> □ 実技講習</p>	<p>□実技講習 講師 清水幹治氏 宇治原尚彦氏  <b>■講習内容 及び ミーティング内容</b>  ○2対2。3番からストロングサイドにドライブ→ハイポスト付近でストップジャンプシュート→リバウンド→速攻  ○3対3。2番でハンドオフプレイ→速攻  ○4対4。エンドスローインから1ゴール。  昨日に続き、トレイルとリードの役割分担がメイン。トレイルがどこまでペネトレイトしなければならないのか。</p>
<p><b>報告⑤</b> □ ゲーム</p>	<p>□ゲ ーム 主審 二宮誠 副審 大倉哲也(大阪) コート主任 清水幹治氏  <b>■講習内容 及び ミーティング内容</b>  桜丘(愛知) — 岡山工業(岡山)  2mを超える高さのマッチアップや、8クロスに対してどう視野を当てていくかが大変勉強になった。ゲーム中、片方のコーチがストレスをためてアピールが多くなる時間帯があった。何に対してストレスをためているかが感じ取れずにいたが、ゲーム後に主任の清水さんから、ワンテンポ遅れて吹いた笛が何のファウルかベンチに勘違いさせ、ストレスを与えていたことを指摘され納得した。</p>
<p><b>報告⑤</b> □ ゲーム</p>	<p>□ゲ ーム 主審 古橋雅一(愛知) 副審 二宮誠  <b>■講習内容 及び ミーティング内容</b>  落ち着いた出しだったのだが、2Pにオールコートマンツーマンでプレスが激しくなった。気持ちの準備はしていたので、悪い手や体の使い方をピッピッと切って、自分では吹けた気になっていたが、過敏に反応しすぎてゲームの流れを切っていることを指摘される。終盤、ルーズボールであまり良い角度でない位置から無理して吹き込んだが、相手審判はきちんと捉えていた。相手審判は今どこを見ているのかをもっと感じながら協力して吹いていきたい。</p>
	<p>今回しばらくぶりにインターハイへ参加させていただき自分のレフリングを見直す良い機会となった。両チームが力を発揮して良いゲームを成立させるために、選手の方や、チーム、ベンチの意図を感じながら、相手審判と協力して、良い位置、良いタイミングで信頼のある判定を積み重ねていかなくてはならない。地元での1試合1試合を大切にしながら力を高めていきたい。  また今回、地元京都のスタッフの方々の準備(メールを使っての案内・資料・輸送・ホテルで・会場で)が、本当に行き届いていて、愛媛国体に向けてこういう部分の準備や研修も必要だと感じた。</p>